



ONTAP NAS ドライバ

Trident

NetApp
February 20, 2026

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/trident/trident-use/ontap-nas.html> on February 20, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

ONTAP NAS ドライバ	1
ONTAP NAS ドライバの概要	1
ONTAP NAS ドライバの詳細	1
ユーザ権限	1
ONTAP NAS ドライバを使用してバックエンドを設定する準備をします	2
要件	2
ONTAP バックエンドの認証	2
NFS エクスポートポリシーを管理します	8
SMB ボリュームをプロビジョニングする準備をします	11
ONTAP NAS の設定オプションと例	15
バックエンド構成オプション	15
ボリュームのプロビジョニング用のバックエンド構成オプション	20
最小限の設定例	23
仮想プールを使用するバックエンドの例	27
バックエンドを StorageClasses にマッピングします	33
更新 dataLIF 初期設定後	34
セキュアな中小企業の例	35

ONTAP NAS ドライバ

ONTAP NAS ドライバの概要

ONTAP および Cloud Volumes ONTAP の NAS ドライバを使用した ONTAP バックエンドの設定について説明します。

ONTAP NAS ドライバの詳細

Tridentは、ONTAPクラスタと通信するための次のNASストレージドライバを提供します。サポートされているアクセスモードは、*ReadWriteOnce(RWO)*、*ReadOnlyMany(ROX)*、*ReadWriteMany(RWX)*、*ReadWriteOncePod(RWOP)*です。

ドライバ	プロトコル	ボリュームモード	サポートされているアクセスモード	サポートされるファイルシステム
「ONTAP - NAS」	NFS SMB	ファイルシステム	RWO、ROX、RWX、RWOP	""、 nfs、 smb
「ONTAP - NAS - エコノミー」	NFS SMB	ファイルシステム	RWO、ROX、RWX、RWOP	""、 nfs、 smb
「ONTAP-NAS-flexgroup」	NFS SMB	ファイルシステム	RWO、ROX、RWX、RWOP	""、 nfs、 smb

- 使用 `ontap-san-economy` 永続的ボリュームの使用数が次の値よりも多いと予想される場合のみ "サポートされるONTAPの制限"。
- 使用 `ontap-nas-economy` 永続的ボリュームの使用数が次の値よりも多いと予想される場合のみ "サポートされるONTAPの制限" および `ontap-san-economy` ドライバは使用できません。
- 使用しないでください `ontap-nas-economy` データ保護、ディザスタリカバリ、モビリティのニーズが予想される場合。
- NetAppでは、ONTAP SANを除くすべてのONTAP ドライバでFlexVol自動拡張を使用することは推奨されていません。回避策として、Tridentはスナップショット予約の使用をサポートし、それに応じてFlexVolボリュームを拡張します。



ユーザ権限

Tridentは、ONTAP管理者またはSVM管理者（通常はクラスタユーザ、`vsadmin` SVMユーザ、または別の名前で同じロールのユーザを使用）として実行することを想定しています `admin`。

Amazon FSx for NetApp ONTAP環境では、Tridentは、クラスタユーザまたは`vsadmin` SVMユーザを使用するONTAP管理者またはSVM管理者、または同じロールの別の名前のユーザとして実行される必要があります `fsxadmin`。この `fsxadmin` ユーザは、クラスタ管理者ユーザに代わる限定的なユーザです。



パラメータを使用する場合は `limitAggregateUsage`、クラスタ管理者の権限が必要です。TridentでAmazon FSx for NetApp ONTAPを使用している場合、`limitAggregateUsage`パラメータはユーザーアカウントと `fsxadmin`、ユーザーアカウントでは機能しません `vsadmin`。このパラメータを指定すると設定処理は失敗します。

ONTAP内でTridentドライバが使用できる、より制限の厳しいロールを作成することは可能ですが、推奨しません。Trident の新リリースでは、多くの場合、考慮すべき API が追加で必要になるため、アップグレードが難しく、エラーも起こりやすくなります。

ONTAP NAS ドライバを使用してバックエンドを設定する準備をします

ONTAP NAS ドライバでONTAPバックエンドを設定するための要件、認証オプション、およびエクスポートポリシーを理解します。

25.10リリース以降、NetApp Tridentは以下をサポートします。["NetApp AFXストレージシステム"](#)。NetApp AFXストレージシステムは、ストレージ層の実装において他のONTAPシステム(ASA、AFF、FAS)とは異なります。



のみ `ontap-nas` AFX システムではドライバー (NFS プロトコル付き) がサポートされていますが、SMB プロトコルはサポートされていません。

Tridentバックエンド構成では、システムがAFXであることを指定する必要がありません。選択すると `ontap-nas`として `storageDriverName` Trident はAFX システムを自動的に検出します。

要件

- すべてのONTAP バックエンドでは、Trident では少なくとも 1 つのアグリゲートを SVM に割り当てる必要があります。
- 複数のドライバを実行し、どちらか一方を参照するストレージクラスを作成できます。たとえば、を使用するGoldクラスを設定できます `ontap-nas` ドライバとを使用するBronzeクラス `ontap-nas-economy` 1つ。
- すべてのKubernetesワーカーノードに適切なNFSツールをインストールしておく必要があります。を参照してください ["こちらをご覧ください"](#) 詳細：
- Tridentでは、Windowsノードで実行されているポッドにマウントされたSMBボリュームのみがサポートされます。詳細については、を参照してください [SMBボリュームをプロビジョニングする準備をします](#)。

ONTAPバックエンドの認証

Tridentには、ONTAPバックエンドの認証に2つのモードがあります。

- Credential-based：このモードでは、ONTAPバックエンドに十分な権限が必要です。事前定義されたセキュリティログインロールに関連付けられたアカウントを使用することを推奨します。例：`admin` または `vsadmin` ONTAP のバージョンとの互換性を最大限に高めるため。
- 証明書ベース：このモードでは、TridentがONTAPクラスタと通信するために、バックエンドに証明書をインストールする必要があります。この場合、バックエンド定義には、Base64でエンコードされたクライアント証明書、キー、および信頼された CA 証明書（推奨）が含まれている必要があります。

既存のバックエンドを更新して、クレデンシャルベースの方式と証明書ベースの方式を切り替えることができます。ただし、一度にサポートされる認証方法は1つだけです。別の認証方式に切り替えるには、バックエンド設定から既存の方式を削除する必要があります。



クレデンシャルと証明書の両方を*指定しようとすると、バックエンドの作成が失敗し、構成ファイルに複数の認証方法が指定されているというエラーが表示されます。

クレデンシャルベースの認証を有効にします

TridentがONTAPバックエンドと通信するには、SVMを対象としたクラスタを対象とした管理者に対するクレデンシャルが必要です。や vsadmin`などの事前定義された標準のロールを使用することを推奨します`admin。これにより、今後のONTAPリリースで使用する機能APIが公開される可能性がある将来のTridentリリースとの前方互換性が確保されます。Tridentでは、カスタムのセキュリティログインロールを作成して使用できますが、推奨されません。

バックエンド定義の例は次のようにになります。

YAML

```
---
version: 1
backendName: ExampleBackend
storageDriverName: ontap-nas
managementLIF: 10.0.0.1
dataLIF: 10.0.0.2
svm: svm_nfs
credentials:
  name: secret-backend-creds
```

JSON

```
{
  "version": 1,
  "backendName": "ExampleBackend",
  "storageDriverName": "ontap-nas",
  "managementLIF": "10.0.0.1",
  "dataLIF": "10.0.0.2",
  "svm": "svm_nfs",
  "credentials": {
    "name": "secret-backend-creds"
  }
}
```

バックエンド定義は、クレデンシャルがプレーンテキストで保存される唯一の場所であることに注意してください。バックエンドが作成されると、ユーザ名とパスワードがBase64でエンコードされ、Kubernetes シークレットとして格納されます。クレデンシャルの知識が必要なのは、バックエンドの作成と更新だけです。こ

の処理は管理者専用で、 Kubernetes / ストレージ管理者が実行します。

証明書ベースの認証を有効にします

新規または既存のバックエンドは証明書を使用して ONTAP バックエンドと通信できます。バックエンド定義には 3 つのパラメータが必要です。

- clientCertificate : Base64 でエンコードされたクライアント証明書の値。
- clientPrivateKey : Base64 でエンコードされた、関連付けられた秘密鍵の値。
- trustedCACertificate: 信頼された CA 証明書の Base64 エンコード値。信頼された CA を使用する場合は、このパラメータを指定する必要があります。信頼された CA が使用されていない場合は無視してかまいません。

一般的なワークフローは次の手順で構成されます。

手順

1. クライアント証明書とキーを生成します。生成時に、ONTAP ユーザとして認証するように Common Name (CN ; 共通名) を設定します。

```
openssl req -x509 -nodes -days 1095 -newkey rsa:2048 -keyout k8senv.key  
-out k8senv.pem -subj "/C=US/ST=NC/L=RTP/O=NetApp/CN=vsadmin"
```

2. 信頼された CA 証明書を ONTAP クラスタに追加します。この処理は、ストレージ管理者がすでに行っている可能性があります。信頼できる CA が使用されていない場合は無視します。

```
security certificate install -type server -cert-name <trusted-ca-cert-name>  
-vserver <vserver-name>  
ssl modify -vserver <vserver-name> -server-enabled true -client-enabled  
true -common-name <common-name> -serial <SN-from-trusted-CA-cert> -ca  
<cert-authority>
```

3. ONTAP クラスタにクライアント証明書とキーをインストールします（手順 1）。

```
security certificate install -type client-ca -cert-name <certificate-name>  
-vserver <vserver-name>  
security ssl modify -vserver <vserver-name> -client-enabled true
```

4. ONTAP セキュリティ・ログイン・ロールが 'cert' 認証方式をサポートしていることを確認します

```
security login create -user-or-group-name vsadmin -application ontapi  
-authentication-method cert -vserver <vserver-name>  
security login create -user-or-group-name vsadmin -application http  
-authentication-method cert -vserver <vserver-name>
```

5. 生成された証明書を使用して認証をテストONTAP 管理 LIF > と <vserver name> は、管理 LIF の IP アドレスおよび SVM 名に置き換えてください。LIF のサービスポリシーが「 default-data-management 」に設定されていることを確認する必要があります。

```
curl -X POST -Lk https://<ONTAP-Management-LIF>/servlets/netapp.servlets.admin.XMLrequest_filer --key k8senv.key --cert ~/k8senv.pem -d '<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><netapp xmlns="http://www.netapp.com/filer/admin" version="1.21" vfiler="<vserver-name>"><vserver-get></vserver-get></netapp>'
```

6. Base64 で証明書、キー、および信頼された CA 証明書をエンコードする。

```
base64 -w 0 k8senv.pem >> cert_base64  
base64 -w 0 k8senv.key >> key_base64  
base64 -w 0 trustedca.pem >> trustedca_base64
```

7. 前の手順で得た値を使用してバックエンドを作成します。

```

cat cert-backend-updated.json
{
  "version": 1,
  "storageDriverName": "ontap-nas",
  "backendName": "NasBackend",
  "managementLIF": "1.2.3.4",
  "dataLIF": "1.2.3.8",
  "svm": "vserver_test",
  "clientCertificate": "Faaaakkkeeee...Vaaallluuuueeee",
  "clientPrivateKey": "LS0tFaKE...0VaLuES0tLS0K",
  "storagePrefix": "myPrefix_"
}

#Update backend with tridentctl
tridentctl update backend NasBackend -f cert-backend-updated.json -n
trident
+-----+-----+
+-----+-----+
|     NAME      | STORAGE DRIVER |                         UUID           |
STATE | VOLUMES | 
+-----+-----+
+-----+-----+
| NasBackend | ontap-nas       | 98e19b74-aec7-4a3d-8dcf-128e5033b214 |
online |         9 | 
+-----+-----+
+-----+-----+

```

認証方法を更新するか、クレデンシャルをローテーションして

既存のバックエンドを更新して、別の認証方法を使用したり、クレデンシャルをローテーションしたりできます。これはどちらの方法でも機能します。ユーザ名とパスワードを使用するバックエンドは証明書を使用するように更新できますが、証明書を使用するバックエンドはユーザ名とパスワードに基づいて更新できます。これを行うには、既存の認証方法を削除して、新しい認証方法を追加する必要があります。次に、更新されたbackend.jsonファイルに必要なパラメータが含まれたものを使用して実行します `tridentctl update backend`。

```
cat cert-backend-updated.json
```

```
{
  "version": 1,
  "storageDriverName": "ontap-nas",
  "backendName": "NasBackend",
  "managementLIF": "1.2.3.4",
  "dataLIF": "1.2.3.8",
  "svm": "vserver_test",
  "username": "vsadmin",
  "password": "password",
  "storagePrefix": "myPrefix_"
}
```

```
#Update backend with tridentctl
tridentctl update backend NasBackend -f cert-backend-updated.json -n
trident
+-----+-----+
+-----+-----+
|     NAME      | STORAGE DRIVER |          UUID          |
STATE | VOLUMES |           |
+-----+-----+
+-----+-----+
| NasBackend | ontap-nas       | 98e19b74-aec7-4a3d-8dcf-128e5033b214 |
online |         9 |           |
+-----+-----+
+-----+-----+
```

i パスワードのローテーションを実行する際には、ストレージ管理者が最初に ONTAP でユーザのパスワードを更新する必要があります。この後にバックエンドアップデートが続けます。証明書のローテーションを実行する際に、複数の証明書をユーザに追加することができます。その後、バックエンドが更新されて新しい証明書が使用されるようになります。この証明書に続く古い証明書は、ONTAP クラスタから削除できます。

バックエンドを更新しても、すでに作成されているボリュームへのアクセスは中断されず、その後のボリューム接続にも影響しません。バックエンドの更新が成功すると、TridentがONTAPバックエンドと通信し、以降のボリューム処理を処理できるようになります。

Trident用のカスタムONTAPロールの作成

Tridentで処理を実行するためにONTAP adminロールを使用する必要がないように、最小Privilegesを持つONTAPクラスタロールを作成できます。Tridentバックエンド構成にユーザ名を含めると、Trident作成したONTAPクラスタロールが使用されて処理が実行されます。

Tridentカスタムロールの作成の詳細については、を参照してください["Tridentカスタムロールジェネレータ"](#)。

ONTAP CLI ノショウ

1. 次のコマンドを使用して新しいロールを作成します。

```
security login role create <role_name> -cmddirname "command" -access all  
-vserver <svm_name>
```

2. Tridentユーザのユーザ名を作成します。

```
security login create -username <user_name> -application ontapi  
-authmethod <password> -role <name_of_role_in_step_1> -vserver  
<svm_name> -comment "user_description"
```

3. ユーザにロールをマッピングします。

```
security login modify username <user_name> -vserver <svm_name> -role  
<role_name> -application ontapi -application console -authmethod  
<password>
```

System Manager の使用

ONTAPシステムマネージャで、次の手順を実行します。

1. カスタムロールの作成：

a. クラスタレベルでカスタムロールを作成するには、*[クラスタ]>[設定]*を選択します。

(または) SVMレベルでカスタムロールを作成するには、*[ストレージ]>[Storage VM]>[設定]>[ユーザとロール]*を選択し `required SVM` ます。

b. の横にある矢印アイコン (→*) を選択します。

c. [Roles]*で[+Add]*を選択します。

d. ロールのルールを定義し、*[保存]*をクリックします。

2. ロールをTridentユーザにマップする:+[ユーザとロール]ページで次の手順を実行します。

a. で【アイコンの追加】+*を選択します。

b. 必要なユーザ名を選択し、* Role *のドロップダウンメニューでロールを選択します。

c. [保存 (Save)] をクリックします。

詳細については、次のページを参照してください。

- ・ "ONTAPの管理用のカスタムロール"または"カスタムロールの定義"
- ・ "ロールとユーザを使用する"

NFS エクスポートポリシーを管理します

Tridentは、NFSエクスポートポリシーを使用して、プロビジョニングするボリュームへのアクセスを制御します。

Tridentでエクスポートポリシーを使用する場合は、次の2つのオプションがあります。

- Tridentでは、エクスポートポリシー 자체を動的に管理できます。この処理モードでは、許可可能なIPアドレスを表すCIDRブロックのリストをストレージ管理者が指定します。Tridentは、これらの範囲に該当する該当するノードIPを公開時に自動的にエクスポートポリシーに追加します。または、CIDRを指定しない場合は、パブリッシュ先のボリュームで見つかったグローバル対象のユニキャストIPがすべてエクスポートポリシーに追加されます。
- ストレージ管理者は、エクスポートポリシーを作成したり、ルールを手動で追加したりできます。Tridentでは、設定で別のエクスポートポリシー名を指定しない限り、デフォルトのエクスポートポリシーが使用されます。

エクスポートポリシーを動的に管理

Tridentでは、ONTAPバックエンドのエクスポートポリシーを動的に管理できます。これにより、ストレージ管理者は、明示的なルールを手動で定義するのではなく、ワーカーノードのIPで許容されるアドレススペースを指定できます。エクスポートポリシーの管理が大幅に簡易化され、エクスポートポリシーを変更しても、ストレージクラスタに対する手動の操作は不要になります。さらに、ボリュームをマウントしていく、指定された範囲のIPを持つワーカーノードだけにストレージクラスタへのアクセスを制限し、きめ細かく自動化された管理をサポートします。



ダイナミックエクスポートポリシーを使用する場合は、Network Address Translation (NAT; ネットワークアドレス変換) を使用しないでください。NATを使用すると、ストレージコントローラは実際のIPホストアドレスではなくフロントエンドのNATアドレスを認識するため、エクスポートルールに一致しない場合はアクセスが拒否されます。

例

2つの設定オプションを使用する必要があります。バックエンド定義の例を次に示します。

```
---
version: 1
storageDriverName: ontap-nas-economy
backendName: ontap_nas_auto_export
managementLIF: 192.168.0.135
svm: svm1
username: vsadmin
password: password
autoExportCIDRs:
  - 192.168.0.0/24
autoExportPolicy: true
```



この機能を使用する場合は、SVMのルートジャンクションに、ノードのCIDRブロックを許可するエクスポートルール（デフォルトのエクスポートポリシーなど）を含む事前に作成したエクスポートポリシーがあることを確認する必要があります。1つのSVMをTrident専用にするには、必ずNetAppのベストプラクティスに従ってください。

ここでは、上記の例を使用してこの機能がどのように動作するかについて説明します。

- `autoExportPolicy` がに設定されてい `true` ます。これは、Tridentが、このバックエンドを使用してSVMに対してプロビジョニングされたボリュームごとにエクスポートポリシーを作成し、アドレスブロックを使用してルールの追加と削除を処理すること `autoexportCIDRs` を示します `svm1`。ボリュームがノードに接続されるまでは、そのボリュームへの不要なアクセスを防止するルールのない空のエクスポートポリシーが使用されます。ボリュームがノードに公開されると、Tridentは、指定したCIDRブロック内のノードIPを含む基盤となるqtreeと同じ名前のエクスポートポリシーを作成します。これらのIPは、親FlexVol volumeで使用されるエクスポートポリシーにも追加されます。

◦ 例：

- バックエンドUUID 403b5326-8482-40dB-96d0-d83fb3f4daec
- `autoExportPolicy` に設定 `true`
- ストレージプレフィックス `trident`
- PVC UUID a79bcf5f-7b6d-4a40-9876-e2551f159c1c
- `svm_pvc_a79bcf5f_7b6d_4a40_9876_e2551f159c1c` という名前のqtree Tridentでは、という名前のFlexVolのエクスポートポリシー、という名前のqtreeのエクスポートポリシー、`trident_pvc_a79bcf5f_7b6d_4a40_9876_e2551f159c1c` およびという名前の空のエクスポートポリシー `trident_empty` がSVM上に作成されます `trident-403b5326-8482-40db96d0-d83fb3f4daec`。FlexVolエクスポートポリシーのルールは、qtreeエクスポートポリシーに含まれるすべてのルールのスーパーセットになります。空のエクスポートポリシーは、関連付けられていないボリュームで再利用されます。
- `autoExportCIDRs` アドレスブロックのリストが含まれます。このフィールドは省略可能で、デフォルト値は `["0.0.0.0/0", "::/0"]` です。定義されていない場合、Tridentは、パブリケーションを使用して、ワーカーノード上で見つかったグローバルスコープのユニキャストアドレスをすべて追加します。

この例では `192.168.0.0/24`、アドレス空間が提供されています。これは、パブリケーションでこのアドレス範囲に含まれるKubernetesノードIPが、Tridentが作成するエクスポートポリシーに追加されることを示します。Tridentは、実行するノードを登録すると、ノードのIPアドレスを取得し、で指定されたアドレスブロックと照合し `autoExportCIDRs` ます。公開時に、IPをフィルタリングした後、Tridentは公開先ノードのクライアントIPのエクスポートポリシールールを作成します。

バックエンドの作成後に 'autoExportPolicy' および 'autoExportCIDRs' を更新できます自動的に管理されるバックエンドに新しい CIDRs を追加したり、既存の CIDRs を削除したりできます。CIDRs を削除する際は、既存の接続が切断されないように注意してください。バックエンドに対して「autoExportPolicy」を無効にし、手動で作成したエクスポートポリシーに戻すこともできます。これには、バックエンド構成で「exportPolicy」パラメータを設定する必要があります。

Tridentがバックエンドを作成または更新した後、または対応するCRDを `tridentbackend` 使用してバックエンドをチェックでき `tridentctl` ます。

```

./tridentctl get backends ontap_nas_auto_export -n trident -o yaml
items:
- backendUUID: 403b5326-8482-40db-96d0-d83fb3f4daec
  config:
    aggregate: ""
    autoExportCIDRs:
    - 192.168.0.0/24
    autoExportPolicy: true
    backendName: ontap_nas_auto_export
    chapInitiatorSecret: ""
    chapTargetInitiatorSecret: ""
    chapTargetUsername: ""
    chapUsername: ""
    dataLIF: 192.168.0.135
    debug: false
    debugTraceFlags: null
    defaults:
      encryption: "false"
      exportPolicy: <automatic>
      fileSystemType: ext4

```

ノードを削除すると、Tridentはすべてのエクスポートポリシーをチェックして、そのノードに対応するアクセスルールを削除します。Tridentは、管理対象バックエンドのエクスポートポリシーからこのノードIPを削除することで、不正なマウントを防止します。ただし、このIPがクラスタ内の新しいノードで再利用される場合を除きます。

既存のバックエンドがある場合は、を使用してバックエンドを更新する`tridentctl update backend`と、Tridentがエクスポートポリシーを自動的に管理するようになります。これにより、バックエンドのUUIDとqtree名に基づいて、必要に応じてという名前の新しいエクスポートポリシーが2つ作成されます。バックエンドにあるボリュームは、アンマウントして再度マウントしたあとに、新しく作成したエクスポートポリシーを使用します。



自動管理されたエクスポートポリシーを使用してバックエンドを削除すると、動的に作成されたエクスポートポリシーが削除されます。バックエンドが再作成されると、そのバックエンドは新しいバックエンドとして扱われ、新しいエクスポートポリシーが作成されます。

稼働中のノードのIPアドレスが更新された場合は、そのノードでTridentポッドを再起動する必要があります。その後、Tridentは管理しているバックエンドのエクスポートポリシーを更新して、IPの変更を反映します。

SMBボリュームをプロビジョニングする準備をします

多少の準備が必要な場合は、次のツールを使用してSMBボリュームをプロビジョニングできます。ontap-nas ドライバ。



オンプレミスのONTAPクラスタ用のSMBボリュームを作成するには、SVMでNFSプロトコルとSMB / CIFSプロトコルの両方を設定する必要があります ontap-nas-economy。これらのプロトコルのいずれかを設定しないと、原因 SMBボリュームの作成が失敗します。



`autoExportPolicy` SMBボリュームではサポートされません。

作業を開始する前に

SMBボリュームをプロビジョニングする前に、以下を準備しておく必要があります。

- Linuxコントローラノードと少なくとも1つのWindowsワーカーノードでWindows Server 2022を実行しているKubernetesクラスタ。Tridentでは、Windowsノードで実行されているポッドにマウントされたSMBボリュームのみがサポートされます。
- Active Directoryクレデンシャルを含む少なくとも1つのTridentシークレット。シークレットを生成するには `smbccreds` :

```
kubectl create secret generic smbcreds --from-literal username=user  
--from-literal password='password'
```

- Windowsサービスとして設定されたCSIプロキシ。を設定します `csi-proxy` を参照してください ["GitHub: CSIプロキシ"](#) または ["GitHub: Windows向けCSIプロキシ"](#) Windowsで実行されているKubernetesノードの場合。

手順

1. オンプレミスのONTAPでは、必要に応じてSMB共有を作成することも、Tridentで共有を作成することもできます。



Amazon FSx for ONTAPにはSMB共有が必要です。

SMB管理共有は、のいずれかの方法で作成できます ["Microsoft管理コンソール"](#) 共有フォルダスナップインまたはONTAP CLIを使用します。ONTAP CLIを使用してSMB共有を作成するには、次の手順を実行します

- a. 必要に応じて、共有のディレクトリパス構造を作成します。

。 `vserver cifs share create` コマンドは、共有の作成時に-pathオプションで指定されているパスを確認します。指定したパスが存在しない場合、コマンドは失敗します。

- b. 指定したSVMに関連付けられているSMB共有を作成します。

```
vserver cifs share create -vserver vserver_name -share-name  
share_name -path path [-share-properties share_properties,...]  
[other_attributes] [-comment text]
```

- c. 共有が作成されたことを確認します。

```
vserver cifs share show -share-name share_name
```



を参照してください ["SMB共有を作成"](#) 詳細については、

2. バックエンドを作成する際に、SMBボリュームを指定するように次の項目を設定する必要があります。ONTAP バックエンド構成オプションのすべてのFSXについては、を参照してください "["FSX \(ONTAP の構成オプションと例\)](#)"。

パラメータ	説明	例
smbShare	次のいずれかを指定できます。Microsoft管理コンソールまたはONTAP CLIを使用して作成されたSMB共有の名前、TridentでSMB共有を作成できるようする名前、ボリュームへの共通の共有アクセスを禁止する場合はパラメータを空白のままにします。オンプレミスのONTAPでは、このパラメータはオプションです。このパラメータはAmazon FSx for ONTAPバックエンドで必須であり、空にすることはできません。	smb-share
nasType	をに設定する必要があります smb . nullの場合、デフォルトはです nfs 。	smb
'ecurityStyle'	新しいボリュームのセキュリティ形式。をに設定する必要があります ntfs または mixed SMBボリューム	ntfs または mixed SMBボリュームの場合
「 unixPermissions 」	新しいボリュームのモード。* SMBボリュームは空にしておく必要があります。*	""

安全なSMBを有効にする

25.06リリース以降、NetApp Tridentは、以下の方法で作成されたSMBボリュームの安全なプロビジョニングをサポートします。`ontap-nas`そして`ontap-nas-economy`バックエンド。セキュア SMB を有効にすると、アクセス制御リスト (ACL) を使用して、Active Directory (AD) ユーザーおよびユーザー グループに SMB 共有への制御されたアクセスを提供できます。

覚えておいてください

- インポート `ontap-nas-economy` ボリュームはサポートされていません。
- 読み取り専用クローンのみがサポートされています `ontap-nas-economy` ボリューム。
- Secure SMB が有効になっている場合、Trident はバックエンドに記載されている SMB 共有を無視します。
- PVC アノテーション、ストレージ クラス アノテーション、およびバックエンド フィールドを更新しても、SMB 共有 ACL は更新されません。
- クローン PVC の注釈で指定された SMB 共有 ACL は、ソース PVC の ACL よりも優先されます。
- セキュアSMBを有効にする際は、有効なADユーザーを指定してください。無効なユーザーはACLに追加されません。
- バックエンド、ストレージ クラス、PVC で同じ AD ユーザーに異なる権限を指定した場合、権限の優先順位は PVC、ストレージ クラス、バックエンドの順になります。
- セキュアSMBは以下でサポートされています `ontap-nas` 管理対象ボリュームのインポートには適用され、管理対象外ボリュームのインポートには適用されません。

手順

- 次の例に示すように、TridentBackendConfig で adAdminUser を指定します。

```

apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentBackendConfig
metadata:
  name: backend-tbc-ontap
  namespace: trident
spec:
  version: 1
  storageDriverName: ontap-nas
  managementLIF: 10.193.176.x
  svm: svm0
  useREST: true
  defaults:
    adAdminUser: tridentADtest
  credentials:
    name: backend-tbc-ontap-invest-secret

```

2. ストレージ クラスに注釈を追加します。

追加する `trident.netapp.io/smbShareAdUser` ストレージクラスにアノテーションを追加することで、セキュアSMBを確実に有効にすることができます。アノテーションに指定されたユーザー値は `trident.netapp.io/smbShareAdUser` で指定されたユーザー名と同じである必要があります `smbcreds` の権限は `full_control`。

```

apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: ontap-smb-sc
annotations:
  trident.netapp.io/smbShareAdUserPermission: change
  trident.netapp.io/smbShareAdUser: tridentADuser
parameters:
  backendType: ontap-nas
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-name: smbcreds
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-namespace: trident
  trident.netapp.io/nasType: smb
provisioner: csi.trident.netapp.io
reclaimPolicy: Delete
volumeBindingMode: Immediate

```

1. PVCを作成します。

次の例では、PVC を作成します。

```

apiVersion: v1
kind: PersistentVolumeClaim
metadata:
  name: my-pvc4
  namespace: trident
  annotations:
    trident.netapp.io/snapshotDirectory: "true"
    trident.netapp.io/smbShareAccessControl: |
      read:
        - tridentADtest
spec:
  accessModes:
    - ReadWriteOnce
  resources:
    requests:
      storage: 1Gi
  storageClassName: ontap-smb-sc

```

ONTAP NASの設定オプションと例

Tridentのインストール時にONTAP NASドライバを作成して使用する方法について説明します。このセクションでは、バックエンドの構成例と、バックエンドをStorageClassesにマッピングするための詳細を示します。

25.10リリース以降、NetApp Tridentは以下をサポートします。["NetApp AFXストレージシステム"](#)。NetApp AFXストレージシステムは、ストレージ層の実装において他のONTAPベースのシステム(ASA、AFF、FAS)とは異なります。



のみ`ontap-nas`ドライバー(NFSプロトコル付き)はNetApp AFXシステムでサポートされていますが、SMBプロトコルはサポートされていません。

Tridentバックエンド構成では、システムがNetApp AFXストレージシステムであることを指定する必要はありません。選択すると`ontap-nas`として`storageDriverName`TridentはAFXストレージシステムを自動的に検出します。以下の表に示すように、一部のバックエンド構成パラメータはAFXストレージシステムには適用されません。

バックエンド構成オプション

バックエンド設定オプションについては、次の表を参照してください。

パラメータ	説明	デフォルト
「バージョン」		常に 1

パラメータ	説明	デフォルト
'storageDriverName'	ストレージドライバの名前 ○ NetApp AFXシステムの場合のみ`ontap-nas`サポートされています。	ontap-nas、ontap-nas-economy、またはontap-nas-flexgroup
backendName`	カスタム名またはストレージバックエンド	ドライバ名+"_"+dataLIF
「管理 LIF」	クラスタまたはSVM管理LIFのIPアドレス完全修飾ドメイン名(FQDN)を指定できます。IPv6フラグを使用してTridentがインストールされている場合は、IPv6アドレスを使用するように設定できます。IPv6アドレスは、のように角っこで定義する必要があります[28e8:d9fb:a825:b7bf:69a8:d02f:9e7b:3555]。シームレスなMetroClusterスイッチオーバーについては、を参照して MetroClusterの例 ください。	"10.0.0.1","[2001:1234:abcd:fe]"
「重複排除	プロトコルLIFのIPアドレス。を指定することを推奨しますNetApp dataLIF。指定しない場合、TridentはSVMからデータLIFをフェッチします。NFSのマウント処理に使用するFully Qualified Domain Name(FQDN；完全修飾ドメイン名)を指定すると、ラウンドロビンDNSを作成して複数のデータLIF間で負荷を分散できます。初期設定後に変更できます。を参照してください。IPv6フラグを使用してTridentがインストールされている場合は、IPv6アドレスを使用するように設定できます。IPv6アドレスは、のように角っこで定義する必要があります[28e8:d9fb:a825:b7bf:69a8:d02f:9e7b:3555]。* MetroClusterの場合は省略してください。*を参照してください MetroClusterの例 。	指定されたアドレス、または指定されていない場合はSVMから取得されるアドレス(非推奨)
'VM'	使用する Storage Virtual Machine * MetroClusterの場合は省略してください。* MetroClusterの例 。	SVM 「管理 LIF」が指定されている場合に生成されます
「autoExportPolicy」を参照してください	エクスポートポリシーの自動作成と更新を有効にします[ブーリアン]。オプションと`autoExportCIDRs`オプションを使用する`autoExportPolicy`と、Tridentでエクスポートポリシーを自動的に管理できます。	いいえ
「autoExportCI」	が有効な場合にKubernetesのノードIPをフィルタリングするCIDRのリスト`autoExportPolicy`。オプションと`autoExportCIDRs`オプションを使用する`autoExportPolicy`と、Tridentでエクスポートポリシーを自動的に管理できます。	["0.0.0.0/0","::/0"]
「ラベル」	ボリュームに適用する任意のJSON形式のラベルのセット	""
「clientCertificate」をクリックします	クライアント証明書のBase64エンコード値。証明書ベースの認証に使用されます	""

パラメータ	説明	デフォルト
「clientPrivateKey」	クライアント秘密鍵の Base64 エンコード値。証明書ベースの認証に使用されます	""
「trustedCACertificate」	信頼された CA 証明書の Base64 エンコード値。任意。証明書ベースの認証に使用されます	""
「ユーザ名」	クラスタ/SVM に接続するためのユーザー名。資格情報ベースの認証に使用されます。Active Directory認証については、 "Active Directory の認証情報を使用して、バックエンド SVM に対してTrident を認証する" 。	
「password」と入力します	クラスター/SVM に接続するためのパスワード。資格情報ベースの認証に使用されます。Active Directory認証については、 "Active Directory の認証情報を使用して、バックエンド SVM に対してTrident を認証する" 。	
'storagePrefix'	SVM で新しいボリュームをプロビジョニングする際に使用するプレフィックスを指定します。設定後に更新することはできません i qtree-nas-economyとstoragePrefixをONTAP 24文字以上で使用する場合、ボリューム名にはストレージプレフィックスは含まれませんが、qtreeにはストレージプレフィックスが埋め込まれます。	"トライデント"

パラメータ	説明	デフォルト
「集約」	<p>プロビジョニング用のアグリゲート（オプション。設定する場合は SVM に割り当てる必要があります）。ドライバの場合 <code>ontap-nas-flexgroup</code>、このオプションは無視されます。割り当てられていない場合は、使用可能ないずれかのアグリゲートを使用してFlexGroupボリュームをプロビジョニングできます。</p> <p> SVMでアグリゲートが更新されると、Tridentコントローラを再起動せずにSVMをポーリングすること で、Tridentでアグリゲートが自動的に更新されます。ボリュームをプロビジョニングするようにTridentで特定のアグリゲートを設定している場合、アグリゲートの名前を変更するかSVMから移動すると、SVMアグリゲートのポーリング中にTridentでバックエンドが障害状態になります。アグリゲートをSVMにあるアグリゲートに変更するか、アグリゲートを完全に削除してバックエンドをオンラインに戻す必要があります。</p> <p>AFX ストレージ システムには指定しないでください。</p>	""
「 <code>AggreglimitateUsage</code> 」と入力します	使用率がこのパーセンテージを超える場合、プロビジョニングは失敗します。 [*] Amazon FSx for ONTAPには適用されません [*] 。 AFX ストレージ システムには指定しないでください。	""（デフォルトでは適用されません）

パラメータ	説明	デフォルト
flexgroupAggregateList	<p>プロビジョニング用のアグリゲートのリスト（オプション）。設定されている場合はSVMに割り当てる必要があります）。SVMに割り当てられたすべてのアグリゲートを使用して、FlexGroupボリュームがプロビジョニングされます。ONTAP - NAS - FlexGroup *ストレージドライバーでサポートされています。</p> <p> SVMでアグリゲートリストが更新されると、Tridentコントローラを再起動せずにSVMをポーリングすること で、Trident内のアグリゲートリストが自動的に更新されます。ボリュームをプロビジョニングするようにTridentで特定のアグリゲートリストを設定している場合、アグリゲートリストの名前を変更するかSVMから移動すると、Tridentアグリゲートのポーリング中にバックエンドが障害状態になります。アグリゲートリストをSVM上のアグリゲートリストに変更するか、アグリゲートリストを完全に削除してバックエンドをオンラインに戻す必要があります。</p>	""
「limitVolumeSize」と入力します	要求されたボリューム サイズがこの値を超える場合、プロビジョニングは失敗します。	"" (デフォルトでは適用されません)
「バグトレースフラグ」	<p>トラブルシューティング時に使用するデバッグフラグ。例： {"api": false, "method": true}</p> <p>使用しないでください debugTraceFlags トラブルシューティングを実行していて、詳細なログダンプが必要な場合を除きます。</p>	null
nasType	NFS または SMB ボリュームの作成を構成します。オプションは `nfs`、`smb` または `null`。`null` に設定すると、デフォルトで NFS ボリュームになります。指定されている場合、常に `nfs` AFX ストレージシステム用。	nfs
「nfsvMountOptions」のように入力します	NFSマウントオプションをカンマで区切ったリスト。Kubernetes永続ボリュームのマウントオプションは通常ストレージクラスで指定されますが、ストレージクラスにマウントオプションが指定されていない場合、Tridentはストレージバックエンドの構成ファイルに指定されているマウントオプションを使用してフォールバックします。ストレージクラスまたは構成ファイルでマウントオプションが指定されていない場合、Tridentは関連付けられた永続ボリュームにマウントオプションを設定しません。	""

パラメータ	説明	デフォルト
qtreesPerFlexvol `	FlexVolあたりの最大 qtree 数。有効な範囲は [50、300] です。	"200"
smbShare	次のいずれかを指定できます。Microsoft管理コンソールまたはONTAP CLIを使用して作成されたSMB共有の名前、TridentでSMB共有を作成できるようにする名前、ボリュームへの共通の共有アクセスを禁止する場合はパラメータを空白のままにします。オンプレミスのONTAPでは、このパラメータはオプションです。このパラメータはAmazon FSx for ONTAPバックエンドで必須であり、空にすることはできません。	smb-share
「useREST」	ONTAP REST API を使用するためのブール パラメーター。useRESTに設定すると `true`、Trident はONTAP REST APIを使用してバックエンドと通信します。false Trident は、バックエンドとの通信にONTAPI (ZAPI) 呼び出しを使用します。この機能にはONTAP 9.11.1 以降が必要です。さらに、使用的ONTAPログインロールには、`ontapi`応用。これは、事前に定義された `vsadmin` そして `cluster-admin`役割。Trident 24.06リリースおよびONTAP 9.15.1以降では、`useREST`設定されている `true` デフォルト; 変更 `useREST`に `false` ONTAPI (ZAPI) 呼び出しを使用します。指定されている場合、常に `true` AFX ストレージ システム用。	true ONTAP 9.15.1以降の場合は、それ以外の場合は false。
limitVolumePoolsSize	ONTAP NASエコノミーバックエンドでqtreeを使用する場合の、要求可能なFlexVolの最大サイズ。	"" (デフォルトでは適用されません)
denyNewVolumePools	を制限し `ontap-nas-economy` バックエンドがqtreeを格納するために新しいFlexVolボリュームを作成することです。新しいPVのプロビジョニングには、既存のFlexVolのみが使用されます。	
adAdminUser	SMB共有へのフルアクセス権を持つActive Directory 管理者ユーザーまたはユーザーグループ。このパラメータを使用して、SMB共有へのフルコントロール権限を持つ管理者権限を付与します。	

ボリュームのプロビジョニング用のバックエンド構成オプション

これらのオプションを使用して、のデフォルトプロビジョニングを制御できます defaults 設定のセクション。例については、以下の設定例を参照してください。

パラメータ	説明	デフォルト
「平和の配分」	qtreeに対するスペース割り当て	"正しい"
「平和のための準備」を参照してください	スペースリザベーションモード：「none」 (シン) または「volume」 (シック)	"なし"
「ナッシュショットポリシー」	使用する Snapshot ポリシー	"なし"

パラメータ	説明	デフォルト
「QOSPolicy」	作成したボリュームに割り当てる QoS ポリシーグループ。ストレージプール / バックエンドごとに QOSPolicy または adaptiveQosPolicy のいずれかを選択します	""
「adaptiveQosPolicy」を参照してください	アダプティブ QoS ポリシーグループ：作成したボリュームに割り当てます。ストレージプール / バックエンドごとに QOSPolicy または adaptiveQosPolicy のいずれかを選択します。経済性に影響する ONTAP - NAS ではサポートされません。	""
「スナップショット予約」	Snapshot 用にリザーブされているボリュームの割合	次の場合は「0」 snapshotPolicy は「none」、それ以外の場合は「」です。
'plitOnClone	作成時にクローンを親からスプリットします	いいえ
「暗号化」	新しいボリュームでNetApp Volume Encryption (NVE) を有効にします。デフォルトはです。`false`このオプションを使用するには、クラスタで NVE のライセンスが設定され、有効になっている必要があります。バックエンドでNAEが有効になっている場合、TridentでプロビジョニングされたすべてのボリュームでNAEが有効になります。詳細については、を参照してください "TridentとNVEおよびNAEとの連携" 。	いいえ
階層ポリシー	「none」を使用する階層化ポリシー	
「unixPermissions」	新しいボリュームのモード	NFSボリュームの場合は「777」、SMBボリュームの場合は空（該当なし）
「スナップショット方向」	にアクセスする権限を管理します。.snapshot ディレクトリ	NFSv4の場合は「true」 NFSv3の場合は「false」
「exportPolicy」と入力します	使用するエクスポートポリシー	デフォルト
'ecurityStyle'	新しいボリュームのセキュリティ形式。NFSのサポート mixed および unix セキュリティ形式SMBはをサポートします mixed および ntfs セキュリティ形式	NFSのデフォルトはです unix 。SMBのデフォルトはです ntfs。
nameTemplate	カスタムボリューム名を作成するためのテンプレート。	""

 TridentでQoSポリシーグループを使用するには、ONTAP 9.8以降が必要です。共有されていないQoSポリシーグループを使用し、ポリシーグループが各コンステイチュエントに個別に適用されるようにします。QoSポリシーグループを共有すると、すべてのワークロードの合計スループットの上限が適用されます。

ボリュームプロビジョニングの例

デフォルトが定義されている例を次に示します。

```

---
version: 1
storageDriverName: ontap-nas
backendName: customBackendName
managementLIF: 10.0.0.1
dataLIF: 10.0.0.2
labels:
  k8scluster: dev1
  backend: dev1-nasbackend
svm: trident_svm
username: cluster-admin
password: <password>
limitAggregateUsage: 80%
limitVolumeSize: 50Gi
nfsMountOptions: nfsvers=4
debugTraceFlags:
  api: false
  method: true
defaults:
  spaceReserve: volume
  qosPolicy: premium
  exportPolicy: myk8scluster
  snapshotPolicy: default
  snapshotReserve: "10"

```

のために `ontap-nas`、そして `ontap-nas-flexgroups`、Trident、新しい計算を使用して、`SnapshotReserve` のパーセンテージと PVC に合わせて FlexVol のサイズが適切に設定されるようになりました。ユーザーが PVC を要求すると、Trident は新しい計算方法を用いて、より多くのスペースを持つ元の FlexVol を作成します。この計算により、ユーザーは PVC 内で要求した書き込み可能な領域を確実に受け取り、要求した領域よりも少ない領域を受け取ることがなくなります。受け取ることはできません。v21.07 より前のバージョンでは、ユーザーが `SnapshotReserve` を 50% に設定して PVC（例えば 5GiB）を要求した場合、書き込み可能なスペースは 2.5GiB しか得られませんでした。これは、ユーザーが要求したのは全巻であり、`snapshotReserve` それはそのパーセンテージです。Trident 21.07 では、ユーザーが要求するのは書き込み可能なスペースであり、Trident はそれを定義します。`snapshotReserve` 全体の量の割合として数値を表示します。これは適用されません `ontap-nas-economy`。これがどのように機能するかを確認するには、次の例を参照してください

計算は次のとおりです。

```
Total volume size = <PVC requested size> / (1 - (<snapshotReserve percentage> / 100))
```

`snapshotReserve = 50%`、`PVC request size = 5 GiB` の場合、ボリュームの合計サイズは $5 / 0.5 = 10 \text{ GiB}$ となり、使用可能なサイズはユーザーが PVC リクエストで要求した 5 GiB になります。`'volume show'` コマンドを実行すると、次の例のような結果が表示されます。

Vserver	Volume	Aggregate	State	Type	Size	Available	Used%
	_pvc_89f1c156_3801_4de4_9f9d_034d54c395f4		online	RW	10GB	5.00GB	0%
	_pvc_e8372153_9ad9_474a_951a_08ae15e1c0ba		online	RW	1GB	511.8MB	0%
2 entries were displayed.							

以前のインストールからの既存のバックエンドは、Tridentをアップグレードする際に、上記のようにボリュームをプロビジョニングします。アップグレード前に作成したボリュームについては、変更を反映させるためにボリュームのサイズを変更する必要があります。例えば、2GiBのPVCで`snapshotReserve=50`以前の設定では、1GiBの書き込み可能領域を持つボリュームが作成されていました。例えば、ボリュームを3GiBにサイズ変更すると、6GiBのボリュームで3GiBの書き込み可能領域がアプリケーションに提供されます。

最小限の設定例

次の例は、ほとんどのパラメータをデフォルトのままにする基本的な設定を示しています。これは、バックエンドを定義する最も簡単な方法です。



ネットアップ ONTAP で Trident を使用している場合は、IP アドレスではなく LIF の DNS 名を指定することを推奨します。

ONTAP NASエコノミーの例

```
---
version: 1
storageDriverName: ontap-nas-economy
managementLIF: 10.0.0.1
dataLIF: 10.0.0.2
svm: svm_nfs
username: vsadmin
password: password
```

ONTAP NAS FlexGroupの例

```
---
version: 1
storageDriverName: ontap-nas-flexgroup
managementLIF: 10.0.0.1
dataLIF: 10.0.0.2
svm: svm_nfs
username: vsadmin
password: password
```

MetroClusterの例

スイッチオーバーやスイッチバックの実行中にバックエンド定義を手動で更新する必要がないようにバックエンドを設定できます。 "SVMのレプリケーションとリカバリ"。

シームレスなスイッチオーバーとスイッチバックを実現するには、 managementLIF を省略します。 dataLIF および svm パラメータ例：

```
---  
version: 1  
storageDriverName: ontap-nas  
managementLIF: 192.168.1.66  
username: vsadmin  
password: password
```

SMBボリュームの例

```
---  
version: 1  
backendName: ExampleBackend  
storageDriverName: ontap-nas  
managementLIF: 10.0.0.1  
nasType: smb  
securityStyle: ntfs  
unixPermissions: ""  
dataLIF: 10.0.0.2  
svm: svm_nfs  
username: vsadmin  
password: password
```

証明書ベースの認証の例

これは、バックエンドの最小限の設定例です。`clientCertificate`、`clientPrivateKey`、および`trustedCACertificate`（信頼されたCAを使用している場合はオプション）がに入力されます`backend.json` およびは、クライアント証明書、秘密鍵、信頼されたCA証明書のbase64エンコード値をそれぞれ取得します。

```
---
version: 1
backendName: DefaultNASBackend
storageDriverName: ontap-nas
managementLIF: 10.0.0.1
dataLIF: 10.0.0.15
svm: nfs_svm
clientCertificate: ZXROZXJwYXB...ICMgJ3BhcGVyc2
clientPrivateKey: vciwKIyAgZG...0cnksIGRlc2NyaX
trustedCACertificate: zcyBbaG...b3Igb3duIGNsYXNz
storagePrefix: myPrefix_
```

自動エクスポートポリシーの例

この例は、動的なエクスポートポリシーを使用してエクスポートポリシーを自動的に作成および管理するようにTridentに指示する方法を示しています。これは、ドライバと`ontap-nas-flexgroup`ドライバで同じように機能し`ontap-nas-economy`ます。

```
---
version: 1
storageDriverName: ontap-nas
managementLIF: 10.0.0.1
dataLIF: 10.0.0.2
svm: svm_nfs
labels:
  k8scluster: test-cluster-east-1a
  backend: test1-nasbackend
autoExportPolicy: true
autoExportCIDRs:
- 10.0.0.0/24
username: admin
password: password
nfsMountOptions: nfsvers=4
```

IPv6アドレスの例

この例は、を示しています managementLIF IPv6アドレスを使用している。

```
---  
version: 1  
storageDriverName: ontap-nas  
backendName: nas_ipv6_backend  
managementLIF: "[5c5d:5edf:8f:7657:bef8:109b:1b41:d491]"  
labels:  
  k8scluster: test-cluster-east-1a  
  backend: test1-ontap-ipv6  
svm: nas_ipv6_svm  
username: vsadmin  
password: password
```

SMBボリュームを使用したAmazon FSx for ONTAPの例

- smbShare SMBボリュームを使用するFSx for ONTAPの場合、パラメータは必須です。

```
---  
version: 1  
backendName: SMBBackend  
storageDriverName: ontap-nas  
managementLIF: example.mgmt.fqdn.aws.com  
nasType: smb  
dataLIF: 10.0.0.15  
svm: nfs_svm  
smbShare: smb-share  
clientCertificate: ZXROZXJwYXB...ICMgJ3BhcGVyc2  
clientPrivateKey: vciwKIyAgZG...0cnksIGRlc2NyaX  
trustedCACertificate: zcyBbaG...b3Igb3duIGNsYXNz  
storagePrefix: myPrefix_
```

nameTemplateを使用したバックエンド構成の例

```
---  
version: 1  
storageDriverName: ontap-nas  
backendName: ontap-nas-backend  
managementLIF: <ip address>  
svm: svm0  
username: <admin>  
password: <password>  
defaults:  
  nameTemplate:  
    "{{.volume.Name}}_{{.labels.cluster}}_{{.volume.Namespace}}_{{.vo\\lume.RequestName}}"  
labels:  
  cluster: ClusterA  
  PVC: "{{.volume.Namespace}}_{{.volume.RequestName}}"
```

仮想プールを使用するバックエンドの例

以下に示すサンプルのバックエンド定義ファイルでは、次のような特定のデフォルトがすべてのストレージプールに設定されています。spaceReserve 「なし」 の場合は、spaceAllocation との誤り encryption 実行されます。仮想プールは、ストレージセクションで定義します。

Tridentでは、[Comments]フィールドにプロビジョニングラベルが設定されます。コメントは、のFlexVolまたはのFlexGroup ontap-nas-flexgroup`で設定します `ontap-nas。Tridentは、仮想プールに存在するすべてのラベルをプロビジョニング時にストレージボリュームにコピーします。ストレージ管理者は、仮想プールごとにラベルを定義したり、ボリュームをラベルでグループ化したりできます。

これらの例では、一部のストレージプールが独自の spaceReserve、spaceAllocation`および `encryption 値、および一部のプールはデフォルト値よりも優先されます。

ONTAP NASの例

```
---  
version: 1  
storageDriverName: ontap-nas  
managementLIF: 10.0.0.1  
svm: svm_nfs  
username: admin  
password: <password>  
nfsMountOptions: nfsvers=4  
defaults:  
    spaceReserve: none  
    encryption: "false"  
    qosPolicy: standard  
labels:  
    store: nas_store  
    k8scluster: prod-cluster-1  
region: us_east_1  
storage:  
    - labels:  
        app: msoffice  
        cost: "100"  
        zone: us_east_1a  
        defaults:  
            spaceReserve: volume  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0755"  
            adaptiveQosPolicy: adaptive-premium  
    - labels:  
        app: slack  
        cost: "75"  
        zone: us_east_1b  
        defaults:  
            spaceReserve: none  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0755"  
    - labels:  
        department: legal  
        creditpoints: "5000"  
        zone: us_east_1b  
        defaults:  
            spaceReserve: none  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0755"  
    - labels:
```

```
app: wordpress
cost: "50"
zone: us_east_1c
defaults:
  spaceReserve: none
  encryption: "true"
  unixPermissions: "0775"
- labels:
  app: mysqladb
  cost: "25"
  zone: us_east_1d
defaults:
  spaceReserve: volume
  encryption: "false"
  unixPermissions: "0775"
```

ONTAP NAS FlexGroupの例

```
---  
version: 1  
storageDriverName: ontap-nas-flexgroup  
managementLIF: 10.0.0.1  
svm: svm_nfs  
username: vsadmin  
password: <password>  
defaults:  
    spaceReserve: none  
    encryption: "false"  
labels:  
    store: flexgroup_store  
    k8scluster: prod-cluster-1  
region: us_east_1  
storage:  
    - labels:  
        protection: gold  
        creditpoints: "50000"  
        zone: us_east_1a  
        defaults:  
            spaceReserve: volume  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0755"  
    - labels:  
        protection: gold  
        creditpoints: "30000"  
        zone: us_east_1b  
        defaults:  
            spaceReserve: none  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0755"  
    - labels:  
        protection: silver  
        creditpoints: "20000"  
        zone: us_east_1c  
        defaults:  
            spaceReserve: none  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0775"  
    - labels:  
        protection: bronze  
        creditpoints: "10000"  
        zone: us_east_1d
```

```
defaults:  
  spaceReserve: volume  
  encryption: "false"  
  unixPermissions: "0775"
```

ONTAP NASエコノミーの例

```
---  
version: 1  
storageDriverName: ontap-nas-economy  
managementLIF: 10.0.0.1  
svm: svm_nfs  
username: vsadmin  
password: <password>  
defaults:  
    spaceReserve: none  
    encryption: "false"  
labels:  
    store: nas_economy_store  
region: us_east_1  
storage:  
    - labels:  
        department: finance  
        creditpoints: "6000"  
        zone: us_east_1a  
        defaults:  
            spaceReserve: volume  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0755"  
    - labels:  
        protection: bronze  
        creditpoints: "5000"  
        zone: us_east_1b  
        defaults:  
            spaceReserve: none  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0755"  
    - labels:  
        department: engineering  
        creditpoints: "3000"  
        zone: us_east_1c  
        defaults:  
            spaceReserve: none  
            encryption: "true"  
            unixPermissions: "0775"  
    - labels:  
        department: humanresource  
        creditpoints: "2000"  
        zone: us_east_1d  
        defaults:
```

```
spaceReserve: volume
encryption: "false"
unixPermissions: "0775"
```

バックエンドを **StorageClasses** にマッピングします

次のStorageClass定義は、を参照してください。[仮想プールを使用するバックエンドの例]。を使用する parameters.selector フィールドでは、各StorageClassがボリュームのホストに使用できる仮想プールを呼び出します。ボリュームには、選択した仮想プール内で定義された要素があります。

- 。 protection-gold StorageClassは、 ontap-nas-flexgroup バックエンド：ゴールドレベルの保護を提供する唯一のプールです。

```
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: protection-gold
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: "protection=gold"
  fsType: "ext4"
```

- 。 protection-not-gold StorageClassは、内の3番目と4番目の仮想プールにマッピングされます。 ontap-nas-flexgroup バックエンド：金色以外の保護レベルを提供する唯一のプールです。

```
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: protection-not-gold
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: "protection!=gold"
  fsType: "ext4"
```

- 。 app-mysqldb StorageClassは内の4番目の仮想プールにマッピングされます。 ontap-nas バックエンド：これは、mysqlDbタイプアプリ用のストレージプール構成を提供する唯一のプールです。

```

apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: app-mysqldb
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: "app=mysqldb"
  fsType: "ext4"

```

- [t] protection-silver-creditpoints-20k StorageClassは、ontap-nas-flexgroup バックエンド：シルバーレベルの保護と20000クレジットポイントを提供する唯一のプールです。

```

apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: protection-silver-creditpoints-20k
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: "protection=silver; creditpoints=20000"
  fsType: "ext4"

```

- creditpoints-5k StorageClassは、ontap-nas バックエンドと内の2番目の仮想プール ontap-nas-economy バックエンド：これらは、5000クレジットポイントを持つ唯一のプールオファリングです。

```

apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: creditpoints-5k
provisioner: csi.trident.netapp.io
parameters:
  selector: "creditpoints=5000"
  fsType: "ext4"

```

Tridentが選択する仮想プールを決定し、ストレージ要件が満たされるようにします。

更新 dataLIF 初期設定後

初期設定後にdataLIFを変更するには、次のコマンドを実行して新しいバックエンドJSONファイルに更新されたdataLIFを指定します。

```
tridentctl update backend <backend-name> -f <path-to-backend-json-file-with-updated-dataLIF>
```



PVCが1つ以上のポッドに接続されている場合、新しいデータLIFを有効にするには、対応するすべてのポッドを停止してから稼働状態に戻す必要があります。

セキュアな中小企業の例

ontap-nas ドライバーを使用したバックエンド構成

```
apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentBackendConfig
metadata:
  name: backend-tbc-ontap-nas
  namespace: trident
spec:
  version: 1
  storageDriverName: ontap-nas
  managementLIF: 10.0.0.1
  svm: svm2
  nasType: smb
  defaults:
    adAdminUser: tridentADtest
  credentials:
    name: backend-tbc-ontap-invest-secret
```

ontap-nas-economy ドライバーを使用したバックエンド構成

```

apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentBackendConfig
metadata:
  name: backend-tbc-ontap-nas
  namespace: trident
spec:
  version: 1
  storageDriverName: ontap-nas-economy
  managementLIF: 10.0.0.1
  svm: svm2
  nasType: smb
  defaults:
    adAdminUser: tridentADtest
  credentials:
    name: backend-tbc-ontap-invest-secret

```

ストレージプールを使用したバックエンド構成

```

apiVersion: trident.netapp.io/v1
kind: TridentBackendConfig
metadata:
  name: backend-tbc-ontap-nas
  namespace: trident
spec:
  version: 1
  storageDriverName: ontap-nas
  managementLIF: 10.0.0.1
  svm: svm0
  useREST: false
  storage:
  - labels:
      app: msoffice
    defaults:
      adAdminUser: tridentADuser
  nasType: smb
  credentials:
    name: backend-tbc-ontap-invest-secret

```

ontap-nas ドライバーを使用したストレージクラスの例

```
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: ontap-smb-sc
  annotations:
    trident.netapp.io/smbShareAdUserPermission: change
    trident.netapp.io/smbShareAdUser: tridentADtest
parameters:
  backendType: ontap-nas
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-name: smbcreds
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-namespace: trident
  trident.netapp.io/nasType: smb
provisioner: csi.trident.netapp.io
reclaimPolicy: Delete
volumeBindingMode: Immediate
```



必ず追加してください `annotations` セキュアSMBを有効にします。バックエンドまたはPVCで設定された構成に関係なく、アノテーションがないとセキュアSMBは機能しません。

ontap-nas-economy ドライバーを使用したストレージクラスの例

```
apiVersion: storage.k8s.io/v1
kind: StorageClass
metadata:
  name: ontap-smb-sc
  annotations:
    trident.netapp.io/smbShareAdUserPermission: change
    trident.netapp.io/smbShareAdUser: tridentADuser3
parameters:
  backendType: ontap-nas-economy
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-name: smbcreds
  csi.storage.k8s.io/node-stage-secret-namespace: trident
  trident.netapp.io/nasType: smb
provisioner: csi.trident.netapp.io
reclaimPolicy: Delete
volumeBindingMode: Immediate
```

単一の AD ユーザーによる PVC の例

```
apiVersion: v1
kind: PersistentVolumeClaim
metadata:
  name: my-pvc4
  namespace: trident
  annotations:
    trident.netapp.io/smbShareAccessControl: |
      change:
        - tridentADtest
      read:
        - tridentADuser
spec:
  accessModes:
    - ReadWriteOnce
  resources:
    requests:
      storage: 1Gi
  storageClassName: ontap-smb-sc
```

複数の AD ユーザーによる PVC の例

```
apiVersion: v1
kind: PersistentVolumeClaim
metadata:
  name: my-test-pvc
  annotations:
    trident.netapp.io/smbShareAccessControl: |
      full_control:
        - tridentTestuser
        - tridentuser
        - tridentTestuser1
        - tridentuser1
      change:
        - tridentADuser
        - tridentADuser1
        - tridentADuser4
        - tridentTestuser2
      read:
        - tridentTestuser2
        - tridentTestuser3
        - tridentADuser2
        - tridentADuser3
spec:
  accessModes:
    - ReadWriteOnce
  resources:
    requests:
      storage: 1Gi
```

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。